



トラックの特性 (3)

今月は、乗用車を運転するドライバーが事故を防止するために知っておくべき「トラックの構造上の特性」について解説します。

トラックが作るさまざまな死角に要注意

1. 右折時に対向車線が死角となる

交差点を右折するとき、対向右折車がトラックの場合には、対向車線がほとんど見えない状況になります(図1)。また、対向直進車がトラックの場合には、その後方を追従してくる車(特に二輪車)が見えない状況になります(図2)。このような場合に、対向車線の十分な確認をせずに右折をすると事故につながります。

図1

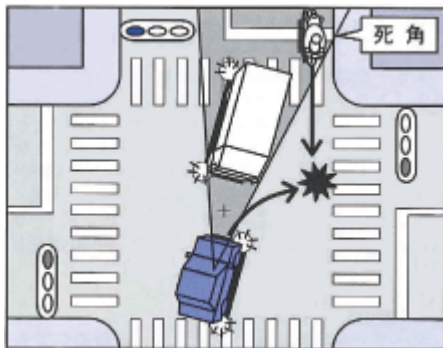
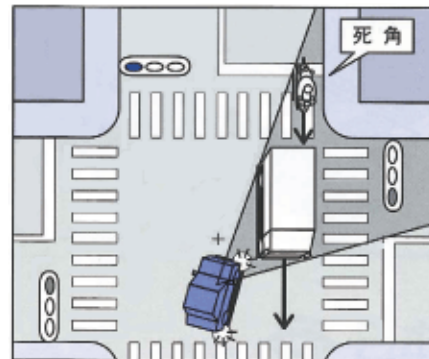


図2



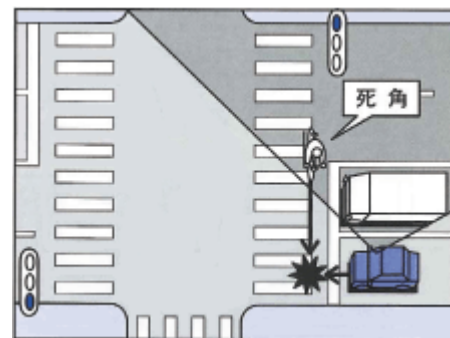
■事故防止のポイント

- ・対向右折車のために対向車線の状況が確認できないときは、対向車線の状況が確認できるところまで、徐々に進行して一時停止し、対向車の有無をよく確認する。
- ・直進トラックが接近しているときは、その後方に二輪車などが隠れているかもしれないと考えて、トラックの通過直後に右折するのではなく、後方の状況を確認してから右折する。

2. 発進時に側方が死角となる

片側2車線以上の交差点で、自車が先頭で停止しているとき、並行して停止している車がトラックの場合は、横断歩道の状況が確認できません(図3)。そのため、信号が青に変わって発進したとき、横断遅れの歩行者や自転車とぶつかる危険があります。

図3



■事故防止のポイント

- ・自車が先頭で停止しているときは、発進する前に必ず横断歩道の左右の状況を確認する。
- ・並行停止車両のために十分な確認ができないときは、並行停止車両が発進するのを待ってから発進する。

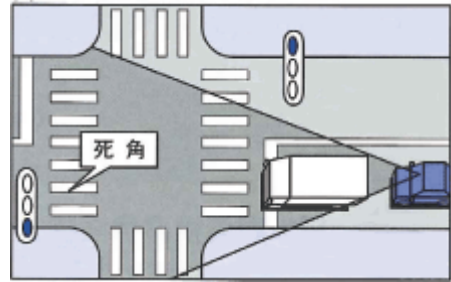
3. 追従時に前方が死角となる

トラックの後方を追従して走行していると、前方の状況が見えにくくなります（図4）。特に、交差点に接近した場合、信号が確認できずに誤って赤信号で進入するという危険があります。

■事故防止のポイント

- ・トラックに追従するのはできるだけ避ける。
- ・やむを得ず追従する場合は、車両距離を十分とる。

図4



走行中は思わぬ死角があることを常に想定し、安全運転を心がけましょう。

(2009年11月作成)